

企業における研究者の多様性と特許出願行動

枝村一磨(科学技術・学術政策研究所)

乾友彦(学習院大学)

要約

本稿では、企業において研究者の多様性が研究開発活動に影響を与えるか否かという観点から、特に性差に注目し、女性研究者に関してその割合や研究分野の偏りが特許出願件数に与える影響を、定量的に分析する。特許出願件数が正の整数であることを考慮したネガティブ・バイノミアルモデルによる推定の結果、先行研究とは異なり、「デモグラフィック型」の多様性指標の代表的なものと考えられる女性研究者割合が高い企業ほど、特許出願件数が多いことが確認された。また、「タスク型」の多様性指標の代表的なものと考えられる研究者の研究分野の偏りについては、偏りが小さい企業ほど特許出願件数が多いことが確認された。さらに、「デモグラフィック型」と「タスク型」の多様性を同時に考慮した指標と考えられる女性研究者の研究分野の偏りについては、偏りが小さい企業ほど、特許出願件数が多いことも確認された。女性研究者の割合が高く、研究分野に偏りがない企業ほど特許出願件数が多い傾向にあるという本稿の推計結果は、研究者の多様性が研究開発活動を活発化させる可能性があることを示唆している。結語で政策的な含意について述べる。

キーワード: 多様性、研究開発、女性研究者、デモグラフィック型多様性、タスク型多様性